羽田平和記念祭

謹啓、初秋の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げますと共に日頃のご厚誼に厚く感謝お礼申し上げます。
さて、この度、第四回目羽田平和記念祭を9月21日午前11時より開催いたしますので是非ともご参加くださることをお願い申し上げます。
羽田の地元は元より、日本全国の皆様方に親しまれております大鳥居、題して平和の大鳥居と名付け位置付けております。ここで大鳥居の由来と羽田の歴史をご紹介させていただきます。
赤い大鳥居は、昭和4年に京浜電鉄(現在の京急グループ)から羽田穴守町にあった穴守稲荷神社に奉納されましたがその後、昭和20年9月21日の日に48時間以内の強制立ち退きが命じられ当時対象となった住民、羽田鈴木町、羽田穴守町、羽田江戸見町の約1200世帯、3000人余りの住民は、町を米軍に接収され、羽田の東京飛行場の引き渡しを命じられ、三つの町は一夜にして跡形もなく破壊され赤い鳥居だけが残ったのです。
穴守稲荷神社に放棄された大鳥居を壊そうとすると事故が相次いだのです。工事にかりだされた労務者が鳥居のてっぺんから二度も足をすべらせて落ち、米兵も機械に挟まれて亡くなりました。そのため工事は中止されましたが、たた

りの赤い鳥居と異名付けられだれも鳥居に近寄らなくなってしまいました。しかし、この赤い大鳥居は三つの町の歴史を守ってきたのです。
三つの町の歴史とは、江戸時代に名主の鈴木弥五衛門が新田開発のリーダーとなって名乗りを上げ、要島と呼ばれる浅瀬を中心とし地域を新田開発し干拓し開墾し羽田漁師町や農業を営み暮らす為の生計を立て、血と涙と汗の結晶で築き上げた、羽田の先人たちの偉業の大地です。明治時代に入ってから明治 27 年には、この地に鉱泉が湧き出たことがあって旅館、料亭、酒屋、春には潮干狩り、夏には海水浴場の絶好のレクリェーションの地になって賑わい、羽田間に電車が開通し穴守町まで走っていました。競馬場も有って町は栄えていました。そんな平和な時代があったのですが、国が愚かな侵略戦争を企て、神の国といって大義を主張し国民をあざむき、他の国を攻め奪い最後我が国は敗戦となったのです。羽田はその戦争の悲劇と空襲に加え、こうした終戦後の大波をもろに受ける羽目になったのです。私たちはこうした羽田の歴史を考え見ると、羽田の先人達の築き上げた偉業の大地に宿る魂が生き続いていることを痛切に感じるので有ります。先人達が培ってきた長い歴史の礎には、何ものにも替えがたい歴史があると言っても過言ではないと思います。
現在、羽田空港の目覚ましい発展と空港の歴史があるのもそうです。羽田の先人達が血と汗と涙の結晶で築き上げた羽田鈴木町、羽田穴守町、羽田江戸見町の三つの町が有ったからです。戦後 65 年を迎え今日を生きる私達、羽田ボラ

ンティア推進の会は、空港内旧羽田穴守町から平成 11 年 2 月 4 日に移設になった大鳥居に羽田の先人達の偉業の大地に相応しい、平和の文字の入った額を平成 11 年 7 月 18 日に奉納させて頂きました。以来平和の大鳥居、周辺の清掃活動や平和の大鳥居の管理、又住民 57400 名の空港内大田区指定避難場所の掲示板を設置し羽田の住民の安全を願い活動に従事し維持存続し守って来ました。その甲斐があってその年の 5 月 28 日に大鳥居を囲ってあった柵を空港長と空港事務所側で撤去してくれました。鳥居は自由にくぐるために有るのであって柵で囲うものではないと言う事を理解してくれました。これを期に羽田平和記念祭に際しまして記念樹(桜の木)を植樹し大鳥居に平和の祈りを込めて平和の鈴を奉納させて頂きました。ユニセフ募金を通じて世界平和への共存共栄に貢献し今は亡き羽田の先人達が血と涙と汗の結晶で築き上げた偉業の大地の歴史と文化を命ある限り存続させ、後世に伝えていく所存でおりますゆえ、平和の大鳥居に対しましてご理解とご協力のほどを宜しくお願い申しあげまして、羽田平和記念祭のご挨拶とさせて頂きます。

謹白

経済が政界を支配し、核兵器や武力が正義を主張する時代に終止符を打ち、
心豊かな伝統文化の心を育む平和な国づくりを大切にして行こうでは有りませんか。

2009 年 9 月 21 日　羽田ボランティア推進の会

私の古里

とぼとぼと、弁天橋を渡れば海と川に抱かれた水辺の聖地
羽田鈴木町、懐かしい私の古里、寄せては返す波間のよう
に、過去を拾いあわせ寄せては消える思いでが、ベンチに
独りただずめば、移転した赤い鳥居が私の前に堂々とそび
えたち、この地の歴史を伝えているかのように思える。
誰が考えたのか、平和の文字がまぶしく輝いて見える、
思わず合掌せずにはいられない、二度と繰り返すことのない
戦争を願い、見上げる空に父母の顔。

あきこ・・・・

ボランティア活動の自由と平和への尊厳

ボランティア活動の自由を否定する者に、自由をもつ資格などない。私たち人類は全て平等であり、生まれながらにして、生命、自由及び幸福の追求の権利を有しているのです。それを奪う権利など、誰にもありません。

愛・自由・正義・勇気を持つ精神こそが「ボランティア活動(無償の精神)」であると私は信じます。「人に尽くす奉仕」という無償の精神が時代を変え、融和の心、共存共栄の精神を生み、この精神によって確立した真の民主主義の愛の英知が明日への世界を築き上げると確信する者であるます。

戦後65年を迎える現在、我が国の先人達が払った計り知れない多くの犠牲により、今日の我が国の地位が有るのです。やはり先人たちの犠牲のもとで、戦争をしない国となり平和の文字を掲げられる国になったことに、我々一人ひとりが誇りを持ち、生命の尊厳の大切さを自覚し、次の世代を担う若者たちや生まれてくる子どもたちのために、私たち大人は今何をすべきかを真剣に考え実行しなければならない時期に突入しているのではないか。このままでは、地球は愚か私たち人類までもが消滅するという地球存亡の危機と言っても過言ではないと思います。

このような時代の流れをどう変えるかは、私たち一人一人の自覚と責任に他ならないと思います。
目の前に残された大切な役目に身を捧げ、無償の精神、ボランティア活動により国際平和社会を築き上げる役割を大義名分として、世界に融和と共存共栄の平和の輪を広げ、未来の輝かしい子どもたちのために、青い美しい地球を残してやりたい。人類の皆が力を合わせれば、不可能なことはないのです。
その理由として、私たちは無限の可能性を秘めた大宇宙の星、地球上に生命を持って生まれて来たということです。事実です。夢ではないのです。

ですから、可能性を信じて、人として守り実行しなければならない大切なことを、一歩一歩地道に築き上げ共に協力して行こうではありませんか。